



The Max Planck Center Seminar Series

演者： 久場川 博三 M.D.

アラバマ大学医学部病理学 教授

演題：“What we have learned so far about the newly-identified IgM Fc receptor”

久場川博三教授は、1971年に順天堂大学医学部でMDを取得され、日本大学医学部病理部および京都大学医学部病理部に勤務後、1976～1982年米国アラバマ大学のDr. Max Cooper研究室でポスドク研究員、1983年より同大学病理学助教、1986年より准教授をつとめられ、2006年に教授に就任されておられます。

先生は、20年以上にわたりFc受容体(FcR)に関する研究をリードしてこられ、1970年代に既に存在は示唆されていたものの分子として発見されていなかったIgMのFc受容体(FcμR)を最近ついに単離されました。今回は、FcμRの同定に至るまでの過程とその分子化学的・生物学的性状、および疾患(特に慢性リンパ性白血病)との関連について、FcμR欠損マウスの解析結果を交えご講演頂きます。

日時：平成26年4月18日(金)

午後4時30分～5時30分

場所：東京大学 医学部教育研究棟

13階(1305) 第8セミナー室

〒113-0033 文京区本郷7-3-1

**連絡先：東京大学大学院医学系研究科 疾患生命工学センター
分子病態医科学部門 (宮崎徹教授室)**

03-5841-1436 (内線:21436) miya@m.u-tokyo.ac.jp